



『四国遍路の近現代』
：「モダン遍路」から「癒しの旅」まで
〈創元社 2005.9〉
【所在】図・展示棚、図・開架・図書
【請求記号】186/Mo 45

森 正人 先生
人文学部助教授

皆さんは、「四国遍路」をご存知でしょうか？
「平凡社世界大百科事典」によると「四国の島内に散在する弘法大師（空海）ゆかりの霊場八十八カ所を、順を追って参詣する巡礼」とあります。学位論文をベースに、故郷の「四国遍路」を足と史料を駆使して研究された本書は、「『伝統文化』って実は作られるものなんだ!」と、目から鱗が落ちる一冊です。著者の森正人先生にお話を伺いました。

※1.平凡社「世界大百科事典」は、「ネット百科」で最新情報が調べられます。http://www.lib.mie-u.ac.jp/

「日本人の心の原風景」
「それだけか？」
まず本の特徴について教えてください。

「四国遍路」は、これまで歴史的・宗教的・民俗学的な意味合いから研究されてきました。現代では、「癒し効果」や「自分探しの旅」など、TVやアウト・ドア雑誌の特集でも取り上げられブームになっていますが、その理由を「日本人の心の原風景」といった面だけで説明するのは、充分ではありません。
この本で目指したのは、「四国遍路」の近現代―明治以降現在までの百年間―を、観光、マス・メディア、国家政策といった様々な事象、変化する時代や社会との関わりの中で解き明かすことです。

「歴史は繰り返さなご」
「文化の変容」
お遍路さんのスタイルも、時代とともに変化しているんですね。

四国遍路の百年間を追いかけると、実は第二次世界大戦前と後で、よく似た現象が起っていることが分かってきました。戦前と戦後は断絶しているわけでは無いのです。
しかし、マルクスという思想家は、ヘーゲルが「世界史上の重大事件と大人物はいわば二度現れる」と言ったのに対して、「二度目は悲劇として、二度目は茶番として」と言いました。歴史は繰り返すのではなく、そのように見えて実は意味が異なるようです。

さらに、「文化」というと、伝統文化、日本文化など昔から変わらず維持されているものをイメージする人も多いと思いますが、実は様々な意図を持った人々によつて作り出され続けているものなのです。
※2.ルイ・ボナパルトのブルジョア的時代 18日 カール・マルクス著 岩波文庫 [PB235.066 / Ma 59]

「本物が偽物か」
「二律背反ではない」
本の中では、「四国遍路」の様々な在りようについて善い悪いという評価をしていますが……
人を好きになった時、ごく自然に、自分をよく見せようとする傾向がありますよね。「比較地域論」という授業で、バリの観光などを取り上げています。例えばバリ・ダンスという伝統文化では、見せる側と見られる側がいるわけですが、そうすると「本物じゃないものは悪い」という批判が出てきます。しかし、そこに善悪を持ち込むのではなく、評価は一旦保留したほうがいい。「何が本物か」という答えは、いくら議論しても永遠に先送りされてしまいます。本物が偽物かではなく、社会の中で変容する事象・人々の営み全体を捉えることが、本質に近づくことだと思っています。

「当たり前」だと思っていたことが実は？
「発想が変わった日」
先生の研究のこれまでを教えてください。
私の研究手法は、地理学の中では端っこに位置しています。卒論は、香川県の「イヤダニマイリ」という習俗について、参詣日などの形態が中心点から離れるにつれてどのように変わるのか、同心円状のモデルを使って分析するという、地理学の伝統的手法で研究しました。それを発表する機会があったのですが、発表の前日、ふと「これは違うんじゃないか。自然だと思っていた現象が、実は誰かに意図的に作られたものじゃないか」と思ったのです。研究上の発想が、構築主義的アプローチに変わった瞬間でした。それでも、地理学が育んできた場所・景観・空間という概念は、やはり重要だと考えられています。

真の「自由」とは？―耐えること―
そして新しい視点を持つこと―
三重大生に望むことは？
今は、戦前・戦後のナショナリズム、日本人の環境認識の変遷、そして「おしゃれな街並」がどう作られ、維持されるのかという研究をしています。「監視社会」とも言うのですが、「おしゃれな街並」では、いろいろなものが予め排除されています。自由に見えて、実は自由じゃないんですね。

真の「自由」を追求してほしい。何でもWeb上で簡単にできてしまうのは、便利でいいじゃないかという風潮がありますが、最初からWebしか知らないという環境はかえって不自由です。例えば本をしっかりと読み、著者の思考を時間をかけて追体験すること。フィールドワークで実際に歩き、お遍路さんと同じ空間・時間を共感し、不便さに耐えてみる。物事を理解し、知識を修得するには「耐える」ことが必要です。そのうえで、新しい視点を持つて欲しいですね。
※3.「日本近代文学の起源」 梶谷行人著 講談社 [910.26 / Ka 63]、「戦時期日本の精神史」 鶴見俊介著 岩波書店 [210.7 / Ts 85]

●森先生をもっと知りたい方は
http://gaea.human.mie-u.ac.jp/~mori/

※3.「日本近代文学の起源」 梶谷行人著 講談社 [910.26 / Ka 63]、「戦時期日本の精神史」 鶴見俊介著 岩波書店 [210.7 / Ts 85]

これだけは読んでおきたい READING * LIST 各学部の先生からのオススメ本

共通教育 久間泰賢先生
中村元 訳
『ブダ最後の旅―大バリニッパ―ナ経―』
岩波文庫
【所在】図・開架・PB
【請求記号】183.59/B 83
二千数百年以上も前に生きたブダを知ろうとする際には、彼の死後に作られた経典（きょうてん）が助けとなる。その中でもブダの晩年を生き生きと描いているのが『大般涅槃経（だいはつねはんぎょう）』であり、臨終に際してブダが弟子たちに残す遺言の数々は、彼らへの愛情と真理への情熱をリアルに伝えてくれる。この本は、この経典の平易な訳註であり、格好の仏教入門書のひとつでもある。人間味溢れるブダの生き様に思いを馳せてみてはどうだろうか。

生物資源学部 長谷川健二先生
村井吉敬 著
『エビと日本人』
岩波新書
【所在】図・開架・PB
【請求記号】664.7/Mu 41
日本人は、世界一エビを食べる民族だそうだ。国内での供給量よりもアジアを始めとする海外からの輸入によって、そのほとんどがまかなわれている。こうした輸入エビは、どのようにして生産され、輸出されてくるのか？読者は、この本を読み進めていくうちに、エビを通してアジアがかかえる環境、貧困などの深刻な社会問題が見えてくる。ぜひ一読を勧めたい。

工学部 清水真先生
化学同人編集部 編
『実験を安全に行うために』
化学同人
【所在】図・開架
【請求記号】432/J 51
化学実験には事故の可能性が潜在しています。したがって、試薬、廃棄物の取り扱いについて習熟していないと実験を適切に行う事はできません。本書を熟読することにより、化学実験を行う際の注意点について理解を深めるとともに適切な準備と行動の重要性を認識することができ、実験上必要不可欠な危険物や有害物質の取扱い法、廃棄物の処置法、応急処置などが具体的に記述されており、化学実験を安全に行うためにおすすめの本書です。

医学部 吉田利通先生
Robbins and Cotran, Robbins (著) W.B. Saunders Co.
森 亘、桶田理喜 監訳
『ロビンズ基礎病理学』第7版
廣川川書店
Kumar, Abbas, Fausto (著) W.B. Saunders Co.
【所在】医学科図書室 【請求記号】491.6/R 51
前者は、1971年にRobbinsによって作られ、4.5年おきに改訂され、初版から現在まで最良の病理の教科書と評価されています。さまざまな疾患における分子、細胞、組織、個体（ヒト）の各レベルを連続的に扱い、臨床での診断、治療のための基礎に発展させるという展開で書かれています。図はカラーで、病変のアトラスともなり、スキームも非常にわかりやすく出ています。日本語訳は誤訳があり、文章もこなれていません。後者の本は、前者の5割増しの記載で、より深い内容を知るためや研究者（特に他分野からの）がいるような疾患の基礎を理解するのに利用できます。

教育学部 中西良文先生
米国学術研究推進会議編 著
『授業を変える：認知心理学のさらなる挑戦』
21世紀の認知心理学を創る会 訳、北大路書房
【所在】図・開架・図書
【請求記号】371.4/J 92
もしあなたに「国の「教育」を良くせよ」との指令が与えられたら、あなたはどうするだろうか？ そのとき、「教育」や「学習」に関する研究者を集め、最先端の研究から現実の教育を良くする方法を提言しよう」と考える人も多いのではないだろうか。本書はアメリカで書かれたものであるが、このような観点から「教育」・「学習」に関わる著名な研究者が集められ、執筆している気合いの入った一冊。学習者も含め、教育に関わる人にとっては、まさに「バイブル」となる一冊である。

人文学部 野村耕一先生
丸山真男 著
『戦中と戦後の間 1936-1957』
みすず書房
【所在】図・開架・図書
【請求記号】310.4/Ma 59
丸山真男という人の存在は高校生の頃から知っていた。この本所収の「盛り合せ音楽会」というエッセイに受験勉強の過程で出会ったからである。大学生になってから同じ著者の『日本の思想』や『現代政治の思想と行動』もあわせて読み、良くも悪くもずいぶん影響を受けた。独断性と裏腹の鮮やかな論理展開が丸山の真骨頂だが、それは毒でもある。今は竹内洋『丸山真男の時代』（中公新書）という解毒剤があるのは幸いかも知れない。